

## 放射線科

### 診療科のご紹介

放射線科は院内各科、および院外からの依頼・紹介を受けて、レントゲン検査をはじめとする各種画像診断を実施します。また、悪性腫瘍などに対する IVR(診断学的治療)や、化学療法を補助する静脈ポート留置なども行います。

### 診療科の検査・診断と検査機器

#### 検査・診断

当科は一般撮影(普通のレントゲン撮影)をはじめ、消化管造影、CT、MRI、シンチグラム(ラジオアイソトープ検査)、超音波検査、血管造影、などの各種画像検査とその診断を行います。診断には日本放射線医学会専門医が当たっており、正確かつ速やかなレポート作成を心がけています。さらに組織学的な診断を得るために CT 下肺生検なども実施しています。

#### 主な検査機器

##### CT

新型のマルチスライス CT2 台で検査を行っています。

マルチスライス CT は従来の装置に比べて短時間での検査が可能で、また 3 次元画像などの作成によって、より多くの診断情報を得ることができます。

##### MRI

1.5 テスラ超伝導型 MRI 装置で検査を行います。特に頭蓋内、骨盤内の検査に優れ、頭蓋内血管の撮影(MRI アンギオグラフィー)も可能です。

#### IVR (Interventional Radiology)

「診断学的治療」とも言われ、診断と治療を同時に行う治療法です。血管内と血管外の治療がありますが、当科では主として血管内治療を行っています。

主な治療として、肝臓の腫瘍に対する抗がん剤の動注療法や動脈塞栓療法(TAE)を行っています。各種治療も主に他科からの依頼で行っていますが、他院から紹介された患者さんなどは、当科入院の上で治療します。